

第八講 かわいくてうつくしい「言葉

- かわいい——主に上から下の相手「言う。親↓子
- うつくしい——清らかで清楚な様、内面も示す

◎可愛い類

あいきやう(愛敬)〜温和で優しく魅力的なこと優しく可愛らうこと
いとほし〜かわいい気の毒不憫困る愛しいことうしろ
かなし(愛し)〜可愛いとのおおすばらうこと
うつくし(愛し美)〜かわいいことおお可愛らしきれいだ麗し
らうたし〜可愛い愛らしことおこ

※ かなしと同じ音で『哀し悲し』がありひどいかわいそうじゃくだ」の意。

◎美しい類

清げなり〜さっぱりして、美しいさま整っている美し
清し〜(風景が)きれいだ、澄んでいる(容姿が)すっきりとして美しい
(心が)潔い、邪念がない、潔白である
※ 連用修飾語として残ると「ろなく、すっかり」
清らなり〜清げなり(同じ)
うるはし(麗し美し愛し)〜美しい立派だ端整だ親しい
「まやかなり(細やか濃やか)〜きめの細かな様色が濃くて美しい様情が厚い様

Ex. 可愛うと思すなかにも、男君の御かなしとは、

↓ 大宮は(孫たちを)たいそうかわいとお思いになる中でも、男君のおかわいさは、

山吹のきよげに藤のおぼつかなきさましたる

↓ 山吹の花がさっぱりとして美しく咲き、藤の花がぼんやりとした姿をしている

うるわしき皮なめり。わきてまことの皮ならむとも知らず

↓ うるはな皮のようだ。(しかし)特に本当の皮衣であるともわからない。

※ なめりは断定の助動詞なり」の連体形なる」+推量の助動詞めり」が合わさったなるめり』の撥音便 なんめり』の「ん」を無表記したものの。

なる」+めり」↓なるめり」↓撥音便 なんめり」↓ん」の無表記なんめり』

接続	基本形	未然系	連用	終止	連体	已然	命令	活用型	意味
未然形	る らる	れ られ	れ られ	る らる	る らる	る らる	れ られよ	下二	自発、受身 尊敬、可能
	す さす しむ	せ させ しめ	せ させ しめ	す さす しむ	する さする しむる	す さす しむれ	せよ させよ しめよ	下二	使役 尊敬
	ず	(ず) ざら	ず ざり	ず ざり	ぬ ざる	ぬ ざれ	○ ざれ	特殊	打消
	じ	○	○	じ	じ	じ	○	無変化	打消推量 打消意思
	む むず	○ ○	○ ○	む むず	む むずる	め むずれ	○ ○	四段 サ変	(文末)意思、適当 勧誘、推量 (文中)婉曲、推定
	まし	(ませ) ましか	○	まし	まし	ましか	○	特殊	反実仮想 反実希望 ためらいの意思
	まほし	○ まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○ ○	形シク	希望
連用形	き	(せ)	○	き	し	しか	○	特殊	体験過去
	けり	(けら)	○	けり	ける	けれ	○	ラ変	伝聞過去
	つ ぬ	て な	て	つ ぬ	つる ぬる	つれ ぬれ	てよ ね	下二 ナ変	完了 強意
	たり	たら	に	たり	たる	たれ	○	ラ変	存続、完了
	けむ	○	○	けむ	けむ	けめ	○	四段	(文末)過去推量 (文中)過去婉曲 過去伝聞
	たし	○ たから	たく たかり	たし ○	たる	たけれ ○	○	形ク	希望
終止形	べし	○ べから	べく べかり	べし	べき べかる	べけれ	○	形ク	当然。意思、適当 命令、推量、可能
	らし	○	○	らし	らし	らし	○	無変化	(根拠)推定
	まじ	○ まじから	まじく まじかり	まじ ○	まじ まじき	まじけれ	○	形シク	打消当然、不適當 打消推量
	らむ	○	○	らむ	らむ	○	○	四段	(文末)現在推量 原因推量 (文中)婉曲、仮定
	めり	○	めり	めり	める	めれ	○	ラ変	(視覚)推定、婉曲
	なり	○	なり	なり	なる	なれ	○	ラ変	(聴覚)推定、伝聞
連体形 体言	なり	○ なら	に なり	なり	なる	なれ	なれ	形動ナリ	断定 所在、存在
体言	たり	○ たら	と たり	たり	たる	たれ	たれ	形動ナリ	断定
の、が 体言	なり	ごとし	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形ク	比況
サ変未然 四段已然	り	ら	り	り	る	れ	れ	ラ変	存続 完了